

転覆及び大傾斜の防止手段に関する研究

漁業生産・情報工学部

研究の背景・目的

漁船漁業は人命喪失の危険が伴う産業の一つとされており、転覆などの重大事故を防ぎ漁船の安全性を高めることは安定した労働力確保の面からも急務の課題である。

研究成果

1. 比較的高速で航行する日本の漁船は追波中を航行しているときが一番危険である。
2. 船首部空中に固定翼を取り付けることにより、大傾斜した際のみ、翼に発生する揚力の寄与により転覆を防ぐため、通常航行時の速度・経済性を犠牲にすることなく、安全性を高めることが出来る。

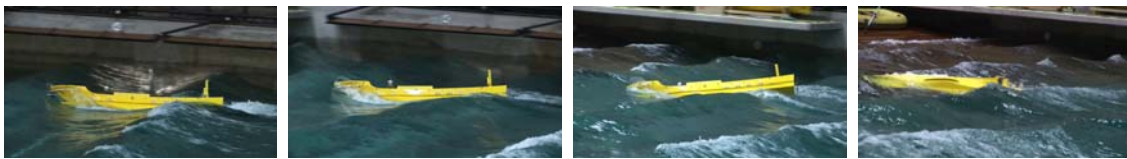
波及効果

既存の漁船にも総トン数を増やすことなく、比較的簡単な改造により取り付けが期待できる。

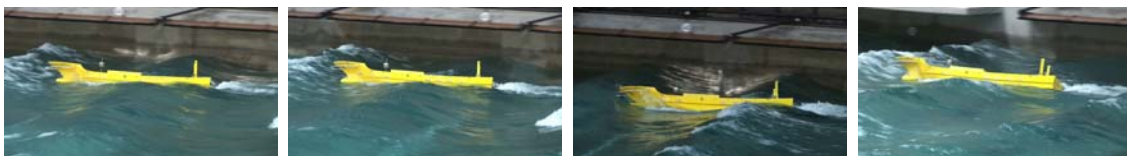
(参考)

審査請求中 特願2007-81081号「転覆及び大傾斜の防止手段を有する船舶」

翼型付加物 非装備時



翼型付加物 装備時



(安全性研究チーム: 松田秋彦)